



新年のご挨拶

圭陵会会長 齋藤和好

令和2年の主な出来事、そして令和3年に向けて

新年 明けましておめでとうございます。

圭陵会会員の皆様には、良き新年をお迎えのことと存じます。年頭にあたり、皆様の益々のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年中も、本会また母校岩手医科大学に対しまして、物心両面にわたりご支援・ご厚情を賜りましたこと、衷心より御礼を申し上げます。

国の内外を問わず、難局はまだまだ続くように感じられますが、本年も何卒一層のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年のこと、そしてこれからのことを少し触れさせていただきます。

国内

- ・会員の皆様におかれましては「新型コロナウイルス感染症の拡大防止」という難局に御苦勞なさっておられることと御拝察いたします。当岩手県内でも新型コロナウイルス感染確認が相次いで出現し、医療体制が「発生初期」から「発生拡大期」になりつつありますが、この度新ワクチンが開発されたということであり、光明を期待してやみません。
 - ・そのコロナ禍に加え、又昨年も異常気象により7月に九州地区、長野県、岐阜県の広範囲に及んだ激甚災害が発生し、本会会員も被災されております。
- 改めて、被災されました皆様に御見舞を申し上げます。
- その災害の原因として地球の温暖化が叫ばれておりますが、秋に就任された菅新首相が、その温暖化阻止に向かって日本も積極的な取り組みをすることを表明され、日本人としても世界に貢献するという大きな夢をいただきました。
- ・又、今年は東日本大震災から10年となります。復興も目に見えて進んできました。国民全体でさらなる支援を行ってまいりましょう。

大学

- ・一昨年9月21日の矢巾新病院への移転に伴う入院患者さんの搬送は、安全第一に搬送体制、手段、方法等が熟慮の上実行され、「患者さんにやさしい病院」が新たに出発しました。
- ・学則によれば「大学の目的は、医療人教育を通じて誠の人間を育成するにある」と小川理事長が述べておられます。(ROTARIY CLUB WEEKLY, 2020-10-2)
- ・矢巾新病院の世界に誇る施設のもと岩手医科大学の教育は「チーム医療の実践」であり、「医学」「歯学」「薬学」「看護学」の医療系4部門を一つのキャンパスに設置して、「総合的に疾患を診る」というテーマに基づき、学部の垣根を越えた「チーム医療教育」が行われることでしょう。
- ・医学部では、学修、生活面でのサポートが全学年にわたって行われております。
- ・歯学部では、ハーバード大学歯学部との交流が進んでおります。
- ・薬学部では、被災地と災害時の役割、臨床体験を学んでおります。
- ・看護学部では、本年3月に初めての卒業生が輩出されます。看護学部第1期生の今後の活躍に期待をし、又本会として一層の支援を行ってまいります。
- ・内丸メディカルセンターは、大学附属施設としての高度専門外来機能に加え、患者さんを総合的に診るプライマリ・ケアの充実を目指す新しいスタイルを構築しております。「地域の皆様に、良質な医療を、まごころをこめて提供します」の理念のもと、矢巾新病院と同様に安心安全な「誠の医療」を実践してくれるものと期待しております。

圭陵会

- ・2年度に開催予定の支部長会、代議員会・総会等は中止となりましたが、その中で代議員会・総会は書面審議・表決にて無事終了いたしました。会員の皆様のご理解・ご協力のもとに所期の目的が果たせましたことに感謝を申し上げます。本部のみならず各支部におかれても会議等の中止により会員相互の活発な交流が残念ながら果たせませんでした。このような時こそ同窓の絆を大事にさせていただきたいと思っております。そして、一日も早くお互いの元気な姿を確認し、大きな声で今までのお互いの苦勞を分かち合い、美酒に酔えることを願っております。

以上、最近のこと、今思っておりますことを述べさせていただきました。

重ねて、本年も何卒一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

学校法人岩手医科大学 理事長 小川 彰

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延でとても「おめでとうございます」とは言えない新年の幕開けです。昨年は圭陵会の各種行事も中止となり、同窓生の皆様とお会いできる機会も失われ誠に残念です。

一方、一昨年9月には120周年記念事業の一環である新附属病院が開院しました。新附属病院本院の周辺の道路は整備され、キャンパスを貫く南北の道路は4車線に拡幅されました。また、東北自動車道には矢巾インターチェンジも整備されました。東北本線矢幅駅も「矢幅—岩手医大前—」と表記され、矢巾町は本学を中心に大きく様変わりしました。住所も「医大通1丁目1番地1」に変わりました。変容した街を、そして素晴らしく整備された母校の姿を同窓生の皆様にご覧いただきたいと願っていた矢先に新型コロナウイルス感染症騒ぎとなり、直接ご覧いただけなかった事は誠に残念です。

岩手医科大学は、世界のトップクラスの有名大学にも負けない複数の特徴（設備・医療機器・コンセプト）を有しています。一つは、「エネルギーセンター」です。大災害発生時、外部からのエネルギー供給が途絶しても、病院のすべての機能を約10日は維持できる優れたものです。関東・東南海の大災害時バックアップ病院

として機能させます。非常用電源ではなく常用電源の発電所を持つ病院はおそらく世界で初めてでしょう。二つ目には産学共同研究で誕生した320列超高性能CTです。4年前に完成したその世界第1号機が本学にあり、その後わずか4年で、欧米はじめ世界に2,000台売られています。さらに性能向上させたバージョンアップ型の世界第1号機は新病院に設置されています。また、ヘリポートは高度救命救急センターの真正面にあり、着陸後わずか1分でセンターに搬送が可能です。センターの周囲には診断機器が配置され、直通のエレベーターで手術室に直結しています。世界でも最も効率良く配置されたドクターヘリ基地です。また、各種検査室、外来は、高齢化を意識し外来患者さんの移動が最小限で済むよう配置されています。医局も病棟で急変が起こった時に配慮し、「医療人は患者さんのそばに」をモットーに設計されています。「患者さんファースト」を意識し、設備・医療機器・コンセプトいずれも世界に冠たる病院に仕上がったと自負しています。

皆様には、コロナ禍が収まった際には、120周年を契機に素晴らしいキャンパスに生まれ変わった母校に足を運んでいただくことをお願いして、新年のご挨拶と致します。



新年、おめでとうございます

岩手医科大学 学長 祖父江 憲 治

明けましておめでとうございます。コロナ流行の第三波が世界と日本中で猛威を振るっておりますが、圭陵会の先生方におかれましては、御家族共々に健やかな新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。先生方には、日頃より本学への温かい御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年春先より、国内におきましても新型コロナウイルスの感染が拡大し、本学でも3月の令和元年度卒業式と4月の令和2年度入学式を、急遽中止せざるを得ませんでした。卒業生と新入生諸君さらに御父兄には、大変に残念な思いをさせてしまうことになりました。新入生諸君には授業開始を例年より2週間遅らせ、この間に自己検疫を行わせました。本学では全学部の全学年に対し、講義は出来る限り（ソーシャルディスタンスを保って）対面講義とし、必要に応じ遠隔授業を導入して行っております。実習に関しても基本的には従来通りの実習を施行してまいりましたが、昨年7月後半には本県でもコロナ発症が確認され、秋以降の実習では極力注意を払い、また院内を含め外部でも実習出来ない場合は、代替実習を行うなどの措置をとっております。

矢巾附属病院と内丸メディカルセンターにおきましても、教職員一体となって感染防御に努めるとともに、本学本来の業務である特定機能病院として、かつ地域医療の中核基幹病院としての役割を果たすべく努力致しております。岩手県ではコロナ発症者0人でしたが、昨年7月以降に増加し始め、第三波といわれる現在ではほぼ市中感染の様相を呈しています。本学でも数名の病院職員と1名の学生が発症しました。痛恨の極み

でありましたが、今後も緊張感を持ち対処してまいります。

学生教育につきましては、圭陵会の先生方に長年にならわたくし御心配をお掛けしておりました医学部国家試験が、令和元年度は上々の成績を挙げる事ができ、少し胸を撫で下ろしているところです。現在の6年生、5年生、4年生とさらに好成績が期待できる学年が控えております。歯学部も上昇中で、令和元年度は国家試験合格率で私学トップ、国公立大学でも上位という好成績でした。いずれも、圭陵会の先生方の御支援と学生諸君のがんばりと教職員の血の滲むような努力によるものと感謝致しております。薬学部につきましては、国家試験と入学生数ともに低迷が続けておりますが、様々な手立てを尽くしてこの状況が反転することを期しております。看護学部は、いよいよ卒業生を送り出す段となりました。卒業生の半数近くが本学附属病院への就職を希望しており、今後の活躍を期待しております。

矢巾の新附属病院が開院して1年数カ月、ようやく地についた活動という時にコロナ禍となりましたが、本学の中・長期ビジョンに立って、矢巾の新附属病院と内丸メディカルセンター各々の特徴を生かした役割分担で、岩手県から北東北における医療中核拠点病院と盛岡医療圏の地域医療拠点病院として、さらなる発展をさせてまいります。

世の中が騒然とした不安定な時ではありますが、先生方におかれましては、ご自愛下さいますと同時に今後とも御指導賜りますことをお願い申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。